

「ワシントンハイツ」の謎

～社史のサイドストーリー～その7

2020年開催の東京オリンピックの“選手村”は、JR新橋駅と豊洲市場の中間地点（中央区晴海）にあります。



東京オリンピック選手村(2019年)

これに対して、1964年に開催した東京オリンピックの“選手村”は、現在の代々木公園や代々木競技場、NHK放送センターなどが位置する場所（渋谷区神南）にあります。



東京オリンピック選手村(1964年)

そこには、かつて“ワシントンハイツ”と呼ばれる米軍施設がありました。ワシントンハイツは、アメリカ空軍の将校クラスの軍人とその家族が暮らすために、92.4万㎡にも及ぶ広大な敷地に1946年に建設された“住宅団地”です。

つまり、東京の中心地に“アメリカの街”があったようなもので、この住宅地には827戸の住宅とともに、学校・教会・劇場・商店・クラブ・グラウンドなどが併設されていました。



ワシントンハイツ(1946年)

1961年11月、開催が3年後に迫った東京オリンピックの選手村の宿舎として、ワシントンハイツの住居を改修して利用することが決まりました。

そして、1964年のオリンピック閉会後にワシントンハイツの敷地を日本に返還することが決まり、選手村の閉鎖に伴ってワシントンハイツはその姿を消すことになりました。



ワシントンハイツ跡(1971年)

ワシントンハイツの移転先としては、米軍の施設がある府中・調布・三鷹の3か所が候補に挙げられ、その中から決定した調布市へ1963年に移転することになりました。

戦後、日本各地にあった焼け野原に建てられたワシントンハイツをはじめとする米軍向けの住宅とそこに住むアメリカ人の家族は、敗戦国の日本人にアメリカ文化への憧憬と民主主義の啓蒙を植え付ける役割を果たしたともいえるのではないのでしょうか。



ワシントンハイツ内高架水槽(当社製)
1946年(昭和21年)受注

こぼれ話①

ワシントンハイツの敷地内は、日本人は立入禁止となっていたのですが、子供たちは比較的自由に入ることができました。

敷地内のグラウンドで野球をして遊ぶ子供たちがいましたが、その中に「ジャニーズ少年野球団」というチームがありました。

チームの指導者はハイツ内に住む日系2世で、彼は後にチーム名から付けた“ジャニーズ”という名の芸能事務所を立ち上げました。

こぼれ話②

ワシントンハイツがあった場所には、大日本帝国陸軍の代々木練兵場がありました。

終戦後すぐに、連合軍は旧日本軍の施設などを中心に次々と接收していきました。

当時、東京都港区芝浦にあった当社の工場の一部も、米軍向けの小麦粉の置場として接收されました。

こぼれ話③

前の東京オリンピック選手村の有力な候補地は、埼玉県朝霞市の米軍駐留地域でした。

しかし、東京の中心に米軍施設があるのは反米感情を高めて危険だとする判断から、ワシントンハイツを選手村として使用したうえで日本に返還することになったのです。

こぼれ話④

当社は、ワシントンハイツ跡地の一角に建てられたNHK放送センターの鉄骨工事に携わりました。

この建物は1965年に完成しますが、NHKが東京オリンピックのホスト放送局として主会場である国立競技場の近くに放送施設を求めて建てられたものです。

なお、NHKはオリンピック閉会後の2020年9月に放送センターの建て替え工事を着工し、2036年に完成する予定で計画中です。

こぼれ話⑤

代々木公園の片隅に、かつてワシントンハイツにあった住宅が当時の姿のまま1軒だけ残されています。

【作成裏話】

このコラムは、もともと社内報の2020年4月号に掲載する予定でした。

しかし、4月1日付で社長の交代劇があり、新社長のご挨拶文を掲載するために1ページ分を空ける必要が生じ、このコラムを次号（7月号）送りとする判断をしました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受け、5月2日に早々と7月号は発行中止が決まってしまいました。

またまた、掲載が先送りとなってしまいましたが、果たして、次の発行となる10月号には掲載ができるでしょうか。(S.T)